

状況を判断し行動できる子に！

校長 高橋 祐二

積雪のない新潟の冬！生涯で、このような冬を迎えるのは初めてです。地球温暖化、異常気象の影響なのでしょうか？今後、予測のつかない天候状況の中で、自然災害が起きないことを念ずるばかりです。また、インフルエンザの大流行により、多くの学年、学級で閉鎖を余儀なくされました。年度末となり、感染が拡大しないことを祈りたいと思います。

さて、2月を迎えても暖冬により、未だに平野部では積雪がありません。（しかし、少雪ながら、ニノックススキー場は、一部滑走可能の時もありました。）そのため、1月22日（水）に予定していた6年生のスキー授業の実施について、判断をとっても迷いました。天気予報では、当面、十分な積雪が望めない。しかし、スキー場が一部滑走可能ということなら何とか実施できるのでは？6年生の多くの子どもたちは、何とかスキーをしたい。担任も小学校生活最後の体育行事として、何とか実施させたい。子どもたちの中には、担任に「校長先生に何とかできるようにお願いしてください。」と懇願する子もいたそうです。私自身も、スキーを愛好するものとして、実施の方向で考えようと思いました。（これほどまでに、天気の神様に雪ごいをしたのは初めてです。）

実施の可否を判断するために、スキー場の状況を自分の目で確認したく、20日（月）に現地へ行きました。一部滑走というだけあり、リフトは稼働しているものの、ゲレンデのあちらこちらに地肌が見えました。関係者にお聞きすると、重機で一部分に雪をかきあつめ、何とかスキーの走路を確保しているとのことでした。

そして、いよいよバス輸送の関係上、実施の可否を前日の昼までに判断しなくてはならないときがきました。関係職員を招集し、実施の可否について相談しました。子どもたちは、行く気満々。担任も連れて行きたいという想いで一杯でした。しかし、最終的に私が決断した結果は、「中止」でした。理由は、少雪のため授業としては、極めて危険性が高い。事故や怪我があってからでは遅いからです。子どもたちや担任の気持ちを考えると苦渋の決断でした。中止の決定後、担任は子どもたちに説明しなくてはなりません。きっと、説明後、ブーイングの嵐が巻き起こるだろうと予想をしていました。しかし、何と「残念だ！」と口に出した子が数人いたものの、「仕方ないな！」と担任の説明を受け入れたそうです。

翌朝、校門に立つ際、きっと、6年生の子どもたちからは、「校長先生、なんでスキー授業をしないんですか？スキー場、行けるじゃないですか？」と責められるのではないかと覚悟していたのです。しかし、心配をよそに、誰一人として要求する子はいませんでした。逆に、いつもと同じく気持ちのよい挨拶を私にしてくれたのです。私は、この状況に、とても感激し、何としても直接、子どもたちに想いを伝えたく、授業中にもかかわらず、6年生の教室に出向き子どもたちに話をしました。

私は、今日、とても感激した。皆さんからは、スキーの実施にあたり、きっと私にブーイングの声があると思った。しかし、誰一人として、私にブーイングの声を出す人はいなかった。人は、誰でも、「こうしたい」「こうありたい」という気持ちを持つもの。でも、無理なことや出来ないこともある。そんな時、その状況を受け入れることも必要だし、もし、そのような時、自分の欲求だけを相手に伝えたら相手はどう思うか？相手の気持ちを考えることも必要だね。皆さんが、「人」として立派であることに感激した。そして、皆さんの「賢さ」を感じた。ありがとうね！

爆発しそうなくらいスキーに行きたい気持ち。そんな気持ちを抑えつつ、担任の話を受け入れた子どもたち。この場で、どういう態度をとればよいのか？そのことを、しっかりと判断し行動がとれた「賢い」子どもたちだと感じました。対人関係の中でも、様々な場面があると思います。そんな時、自分は、どんな「立ち振る舞い」をすればよいか考え行動できる子。そして、その場面を振り返ることができる子。そんな子どもに育てたいと感じた今回の出来事でした。いよいよ、卒業までカウントダウンとなりました。